

小学校教員養成課程の学生による地域でのスポーツ指導の意義 —近隣小学校における「スポーツ講習会」の実践から—

The Significance of Local Sports Instruction by Students in Elementary School Teacher Training —Through the Execution of “A Sports Class” in a Local Elementary School—

陳 洋明*, 藤井 千恵子**

Yomei CHIN* and Chieko FUJII**

1. はじめに

国士舘大学体育学部こどもスポーツ教育学科では、「体育・スポーツの得意な小学校教員」を養成することを目指し、心身ともに充実した、高い専門性と優れた実践力を身につけた教員を育てることを目標としている。こどもスポーツ教育学科では、小学校の教員免許状のほか、中学校・高等学校の保健体育の教員免許状が取得可能であり、学生たちは、より体育の専門性を兼ね備えた小学校教員を目指し、勉学に勤しんでいる。

本学科では、卒業した学生が運動会の運営に携わることを想定し、運動会に関する知識と運動会を企画・運営する力を身につけるため、学生が自ら企画・運営する「ミニ運動会」を平成21年度から毎年、学園祭にて実施している²⁾⁵⁾。この「ミニ運動会」により、学生たちは、運動会についての知識や運動会の運営方法について学ぶだけでなく、児童と触れ合うことや児童を理解することを学ぶことができることから、「ミニ運動会」は学生にとって地域の小学生と関わる大切な機会であ

ると考えられる。小学校教員を目指す学生にとって、学生時代の早い段階から児童に関わる機会を得ることは、児童への関わり方を学んだり、児童を理解する力を養えたりと、後の教員生活に良い影響を与えるといえよう。したがって、小学校教員養成課程を持つ大学においては、大学での通常の授業のほかに学生が児童と関わる機会を提供することが学生の「教師としての資質」を向上させる上で重要であると考えられる。

本学科では、平成22年度の第2回目の「ミニ運動会」の実施後、大学近隣の小学校において児童のお楽しみ会を主催する方から「スポーツ講習」の実施の依頼があったことがきっかけで、毎年、「スポーツ講習会」を実施している。この「スポーツ講習会」は学生たちが、年に数回、大学近隣の小学校に出向き、地域の小学生を対象に様々な運動遊びやスポーツの行い方や楽しみ方を教えるものである。「体育・スポーツの得意な小学校教員」を育成する本学科としては、「スポーツ講習会」の実践を通して児童への関わり方を学ぶことはもちろん、学生たちの体育の指導力を高める

* 国士舘大学体育学部教務助手 (Educational Assistant Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

** 国士舘大学体育学部こどもスポーツ教育学科 (Department of Sports Education for Children, Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

良い機会であると考えている。

そこで本研究では、大学近隣小学校での「スポーツ講習会」の実践を通して、学生がどのようなことを学んだのか、どのようなことを身につけたのかを明らかにし、「スポーツ講習会」実践の意義について明らかにしていく。また、「スポーツ講習会」の実践を通して得た反省や課題をもとに、より良い「スポーツ講習会」の実施方法についても検討していくこととする。

2. 「スポーツ講習会」について

2.1. 「スポーツ講習会」の概要

「スポーツ講習会」は、大学近隣にあるM市立T小学校の校外安全生活部と連携し、学生が主体となり、T小学校に通う小学生を対象に、放課後の時間（1時間程度）において「スポーツ講習」を行うものである。T小学校の校外安全生活部は、T小学校に通う児童の保護者の方々と構成されており、定期的に児童のお楽しみ会を企画している。

2.2. 「スポーツ講習会」の実施の手続き

「スポーツ講習会」は、T小学校の校外安全生活部から「国士舘大学の学生さんたちとお楽しみ会」という名目で、子どもたちが楽しめる運動遊びやスポーツを教えて欲しいとの依頼の下に実施している。年度初めに、校外安全生活部の方々と打ち合わせを通して年間の「スポーツ講習会」の日程が決定する。多い時は年に8回か9回実施することがある。これはT小学校周辺を多数の地区班に分け、分けられた地区班ごとに「スポーツ講習会」を実施しているからである。

2.3. 「スポーツ講習会」への学生の関与

「スポーツ講習会」は先述のとおり、学生が中心となって実施するものであることから、「スポーツ講習会」に参加する学生の人数を確保しなければならない。したがって講習会の日程が近づいたら、掲示板での告知や授業でのアナウンスを通

して、参加する学生の人数確保に努める。その結果、スポーツ指導に興味を示す学生が毎回10人程度集まり、講習会を運営している。なお、実施日が水曜日の午後になることが多く、大学の授業の時間割状況から、こどもスポーツ教育学科の3年生が中心となり、講習を運営している。2年生や1年生は、実施日に授業が無ければ参加することにしている。

2.4. 平成25年度の「スポーツ講習会」の実施状況

表1は、平成25年度の「スポーツ講習会」の実施日と担当学生の人数を示したものである。実施場所は、原則体育館であるが、参加する児童が多い場合は、校庭も使用する。同日、同じ時間に講習を実施した5月16日を除いては、10人前後の学生が講習の運営を担当している。5月16日では担当する学生を2手に分けて、講習を実施した。なお、第2回目の講習は、校庭での実施が予定されていたが、雨天の影響で、室内でのレクリエーションに変更になった。5月22日の講習では3年生、2年生合わせて14人と多くの学生が参加した。全体を見ると3年生中心の参加状況であるが、2月12日の講習では全員2年生で担当している。これは、来年度の実施も視野に入れ、2年生のみで講習の運営を経験する機会を確保したためである。なお、講習会に参加する児童数は、

表1 平成25年度の「スポーツ講習会」の実施日と担当学生の人数

	月日(曜日)	担当学生の人数
第1回	5月16日(木)	3年生 6名
第2回	同上	3年生 4名 2年生 2名 計 6名
第3回	5月22日(水)	3年生 12名 2年生 2名 計14名
第4回	6月12日(水)	3年生 8名
第5回	6月19日(水)	3年生 10名
第6回	7月18日(木)	3年生 5名 2年生 6名 計11名
第7回	10月23日(水)	3年生 10名
第8回	2月12日(水)	2年生 8名

毎回異なるが、毎回50～60人程度であり、多い時は70人程度になる。主に低学年児童の参加率が高い。

2.5. 平成25年度の「スポーツ講習会」の実施内容

「スポーツ講習会」は平成25年度で4年目を迎え、25年度は、実施する運動遊びやスポーツの選定が課題となった。24年度や23年度で実施した内容を25年度の第1回目、2回目の講習で実施したところ、児童から「これ、前にやったことある」など多少の不満の声が聞こえてきた。そこで学生たちとの話し合いの結果、平成25年度は以下の3つを中心にスポーツ講習を実施した。

・オセロゲーム

2チームに分かれてゲームをする。リバーシブル（青色・ピンク色）の柔らかい素材の円形物^{注1)}を青色・ピンク色同じ数置き、各チーム青色・ピンク色、どちらの色にひっくり返すのかを決める。制限時間内にたくさんひっくり返し、色を変えたチームの勝ち（写真1）。1対1でゲームするだけでなく、2対2とプレイヤーの数を増やしてゲームするのも面白い。この「オセロゲーム」に似た内容は、小学校体育科の体づくり運動領域の「多様な動きをつくる運動（遊び）」のパンフレット⁴⁾にも紹介されており、「体を移動する運動（遊



写真1 オセロゲーム

び)」の活動として取り上げることができるものである。この活動を通して楽しみながら、色々な方向に素早く走って移動する多様な動きが身につくことが期待できる。

・ボールギャザーゲーム¹⁾

1辺が5mくらいの正方形のコーナーにフラフープを1個ずつ置く。中央にも1つ置き、その中にボールを7個置く。コーナーのフラフープに各チーム一人ずつ入り、笛の合図でボールを各自のフラフープの中にできるだけ早く3個集めたチームの勝ち。一度に運べるボールは1個である。他のチームのフラフープの中からボールを取って、自分のフラフープに移動させても良い。どこのチームが最初に3つ集めるかわからないため、大変盛り上がるゲームである（写真2）。この活動を通して楽しみながら、素早さや敏捷性を高めることが期待できる。

・ディスク投げ

柔らかい素材でできた「フライングディスク」^{注2)}を投げることを楽しむ活動である。2人1組で対人パスをしたり、グループになり円陣でパスをしたりする（写真3）。また、学生が持つフラフープにディスクを入れるターゲット式の活動も取り入れた。児童が「フライングディスク」という普



写真2 ボールギャザーゲーム



写真3 ディスク投げ



写真4 「スポーツ講習会」へ向けての話し合いの様子

段あまり扱わない用具を使うことで、児童の興味を引くことができる。ディスクが柔らかい素材でできている上、軽いことから安全性があり、低学年の児童でも楽しく取り組める。

2.6. 「スポーツ講習会」の実施のための準備

講習会実施1週間前に、学生が地区班の代表の保護者に連絡を取り、正式な実施時間・実施場所、参加する児童の人数を確認する。その情報を基に参加する学生が事前に集まり、ミーティングを行う(写真4)。ミーティングでの話し合い内容は以下の通りである。


- ・講習会の時間、参加する児童の人数の確認
- ・当日の流れと安全管理等の留意点の確認
- ・役割決め
- ・実施種目のルールや指導方法の確認

・用具の準備等

役割決めでは、「司会」、「パフォーマンス披露」(学生がリフティングやダンクシュート、バドミントンのスマッシュ、器械運動の技を披露するもの)、「準備運動係」の担当を決めるほか、誰がどの種目を指導するのか、実施する3種目それぞれの運営係を話し合いの上で決定している。また、講習会当日も早めに集まり、実施する種目の指導方法について各種目のリーダー中心に打ち合わせをしている。

2.6. 「スポーツ講習会」のプログラムと実施上の留意点

第3回目～第8回目の「スポーツ講習会」のプログラムと学生らが講習を実施する上での留意点は以下に示す通りである。

講習会の流れ	実施上の留意点
<p>1. 集合、整列</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会が中心になり、児童を集合させる。 ・司会以外の学生は、学年ごとに整列させることに努める(6人の学生が前に立ち、学年ごとに並ぶよう呼びかける)。

2. 挨拶、自己紹介



- ・司会が自分たちは「どこの大学から来たのか」、「大学で何を学んでいるのか」について簡単に紹介する。
- ・学生が一人ずつ自己紹介を行う。学生の名前がわかるようにガムテープに名前を書いて貼り、児童にわかりやすくする。

3. パフォーマンス披露



- ・参加する学生の得意とするスポーツを披露する。
- ・器械運動の技やダンクシュート、リフティングなど3つ程度披露する。

4. 準備運動（体ほぐし）

体育館を色々な移動方法で動き回り、笛を吹いた数の人数で集まって座る。



- ・走るだけでなく、サイドステップやスキップ、後ろ向きに走るなど多様な動きを行うようにする。
- ・児童同士がぶつからないように安全に留意する。

5. グループ分け

再び集合し、3つのグループに分かれる。

- ・低・中・高学年の3グループに分ける。

6. 実技

「オセロゲーム」、「ボールギャザーゲーム」、「ディスク投げ」の3種目をローテーション方式で行う。



7. 集合、整列、終わりの挨拶

実技終了後、再び学年別に集合し、整列する。

- ・それぞれの種目のリーダーが行い方（見本）、ルール説明、安全指導を行った後、実技を開始する
- ・ボールギャザーゲームは各陣地に学生がつき、安全管理に努める。
- ・1種目15分程度で終了し、ローテーションし、時間配分に気をつける。
- ・次のセクションに移動する際、水分補給の時間を取るようにする。

- ・司会から今日のスポーツ講習で楽しかった種目を児童から聞き、振り返りをする。

3. 研究方法

「スポーツ講習会」の実践の意義を検討するため、以下のとおりアンケート調査を実施した。

(1) 講習会参加学生を対象としたアンケート調査の実施

「スポーツ講習会」に参加した平成25年度こどもスポーツ教育学科2年生（8名）、3年生（22名）を対象に「スポーツ講習会」に対するアンケート

調査を実施した。調査内容は以下の通りである。

- ・「スポーツ講習会」を通して学んだことは何ですか。
- ・「スポーツ講習会」に参加して良かった点は何ですか。
- ・「スポーツ講習会」の実施を通して、反省点や課題があれば書いてください。
- ・今後の「スポーツ講習会」で取り入れた方がよい種目、ゲームなどがあれば書いてください。

(2) T小学校校外安全生活部の保護者を対象としたアンケート調査の実施

T小学校校外安全生活部の保護者（6名）を対象に国士舘大学の学生による「スポーツ講習会」の実施に関するアンケート調査を実施した。調査内容は以下の通りである。

- ・学生たちの「スポーツ講習会」の運営状況はいかがでしたか。
- ・「スポーツ講習会」に対する子どもたちの反応はいかがでしたか。
- ・「スポーツ講習会」における学生たちの印象や姿について教えてください。
- ・「スポーツ講習会」で実施している種目は適切ですか。また実施して欲しい種目等あればご記入ください。
- ・その他「スポーツ講習会」に対するご感想、ご意見あればご記入ください。

4. 結果と考察

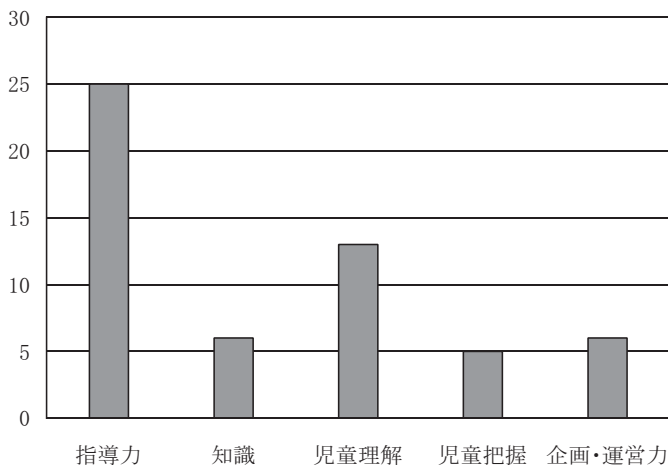
4.1. 講習会参加学生を対象としたアンケート調査の結果

学生を対象としたアンケート調査から得られた学生の自由記述を、三小田・藤井⁵⁾の研究を参考に「指導力」、「体育・スポーツの知識」、「児童理

解」、「児童の実態把握」、「企画・運営力」の5つのカテゴリーに分類し、考察することとした。

4.1.1. 「スポーツ講習会」を通して学んだことについての結果

図1は、「スポーツ講習会」を通して学んだことについての自由記述を分類した結果を示したものである。一番多かった記述は「指導力」に関するものであり（記述数：25）、「いかに簡潔に説明をわかりやすく子どもたちに伝えるか」、「実際に子どもたちにルールを教えたりすることの大変さを学んだ」、「子どもたちに一からスポーツを教える難しさ」などの記述がみられ、学生は児童に対して運動の行い方やルールについて説明することの難しさを感じていることが明らかになった。また、「子どもたちをまとめるには、話す内容や順番をしっかりと考えてから前にならなければならない」などの記述もみられたことから、学生たちは、児童の前に立って話すことの大切さを感じていたと推察できる。さらには「安全の配慮」、「しっかり子どもたちを見て、危険な行動をさせないように気をつける必要があることを学んだ」など安全指導に関する記述も多数みられた。安全指導は体育授業を行う上で重要なことであることから、参加した学生は講習会を通して安全指導の重要性を



カテゴリー	記述数
指導力	25
体育・スポーツの知識等	6
児童理解	13
児童の実態把握	5
企画・運営力	6

図1 「スポーツ講習会」を通して学んだこと

感じることができたと考えられる。「児童理解」に関する記述もやや多くみられ、「児童との関わり方、接し方」と記述した学生は8名いたことから、講習会を通して児童と関わることで学生は児童理解についての学びを得ることができたといえる。

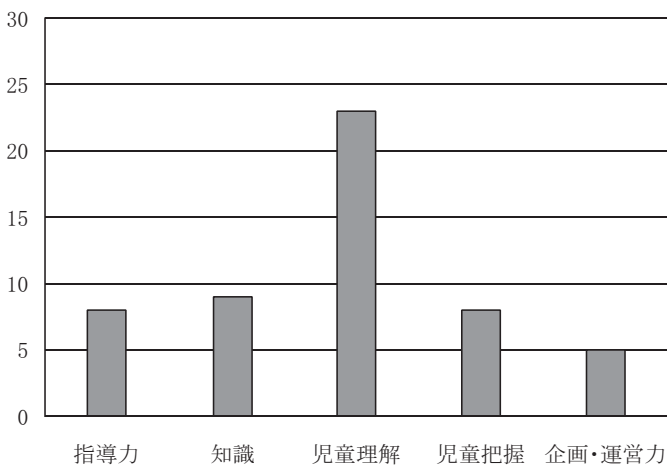
4.1.2. 「スポーツ講習会」に参加して良かった点についての結果

図2は、「スポーツ講習会」に参加して良かった点についての自由記述を分類した結果を示したものである。これをみると「児童理解」に関する記述が大多数を占めていることがわかる（記述数：23）。具体的には、「たくさん子どもたちと触れ合えたこと」、「子どもたちと一緒に楽しくスポーツができたこと」、「子どもとの交流の仕方が学べたので良かった」、「子どもに対しての接し方を勉強できた」などの児童との関わりに関する記述が多くみられた。このことから「スポーツ講習会」は学生にとって児童と関わる大変良い機会であることがうかがえる。また、「誰でも楽しめるスポーツを知ることができた」、「スポーツについて学べた」、「自分の知らないスポーツを知ることができた」、「体育教材の研究ができたこと。この講習会に参加しなければ知らずにいた」などの記

述がみられたことから、「スポーツ講習会」を通して体育・スポーツに関する新たな知識や教材、指導方法を知ることができた学生が多数いた。よってスポーツ指導を学生自ら実践する機会を設けることで、学生自身の体育・スポーツ指導に関する知識や実践力を高めることが可能であると考えられる。さらには、「各学年の児童がいて、低学年の動き、中学年の動き、高学年の動きというのが、自分の予想しているものとは違ったため、参加して知れたのが良かった」、「1～6年生までの学年混合で行ったのは初めてで、色々な子どもの特徴を一気に知れて勉強になった」などの「児童の実態把握」に関する記述も多数みられた。「スポーツ講習会」は学生が記述する通り、1年生～6年生、全学年を対象とするものであることから、学生にとって各学年段階の児童の実態を知る上では有効な機会であるといえる。

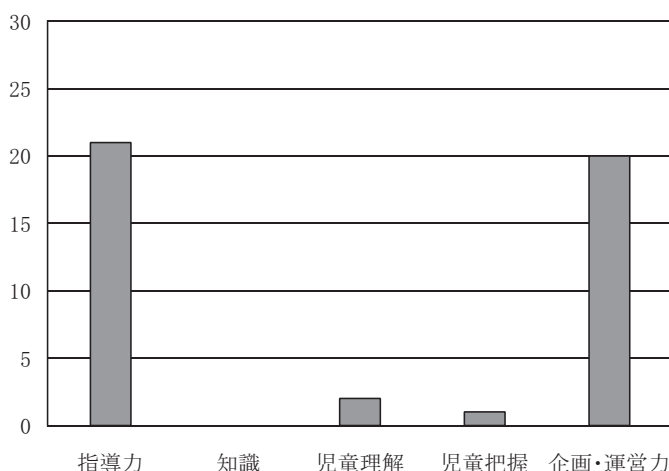
4.1.3. 「スポーツ講習会」の実施を通しての反省点や課題についての結果

図3は、「スポーツ講習会」の実施を通しての反省点や課題についての自由記述を分類した結果を示したものである。これをみると「指導力」、「企画・運営力」に関する記述が多くみられたことがわかる（記述数：「指導力」21、「企画・運営



Category	Number of Descriptions
指導力	8
体育・スポーツの知識等	9
児童理解	23
児童の実態把握	8
企画・運営力	5

図2 「スポーツ講習会」に参加して良かった点



カテゴリー	記述数
指導力	21
体育・スポーツの知識等	0
児童理解	2
児童の実態把握	1
企画・運営力	20

図3 「スポーツ講習会」の実施を通しての反省点や課題

力」20)。

「指導力」に関する記述では、「もっとこちらの指示を工夫し、教える内容をより研究すること」、「教え方や説明の仕方をもっと工夫できたらよかった」などの記述がみられ、「スポーツ講習会」の実施を通して児童に「教える」ということに対して課題を持っていた学生がいたことが明らかになった。また、「話を聞かずに遊んでいる子などへの注意が大変だった」、「道具を使って遊んでいる子どもたちを注意すべき場面ではきちんとすべきだった」などの記述もみられ、児童に対して「注意をする」、「けじめをつけさせる」ことの大切さを感じている学生もいた。児童に対して「学習内容を適切に教える」、場合によっては児童に「注意を促す」、これらは学校教育において必要とされる教員としての資質であるといえる。実際、児童に運動やスポーツを指導する経験を通して、教育に対する課題を持てたことは、今後の教員生活に大いに影響するものと考えられる。

「企画・運営力」に関する記述では、「時間通りにうまく回らなかったところ」、「時間配分の曖昧さ」、「進行がスムーズにいかなかった」、「競技の説明が長かった」などの時間配分や講習会運営状況に関する記述が多数みられた。時間配分や運営状況に関する反省が出たことから、時間内で計画

的に実施するため、打ち合わせの段階で参加者全員が講習会の流れや実施する種目の内容（行い方・ルール）をしっかりと把握する必要があると考えられる。また、「事前に競技の説明の仕方やデモンストレーションの仕方をもっと話し合っておけばよかった」、「もっと考えて準備してから講習会をしたほうがよかった」などの記述もみられた。今回は新たな種目も取り上げて行うということもあり、事前の講習会に向けての話し合いがより必要であったが、話し合いの時間がそれほど多くなく、また事前の話し合いに参加者全員が集まらなかった状態で実施に至ったため、このような反省・課題が出ていると考えられる。よって次年度も新たな種目を実践することを考えると講習会前の参加者でのミーティングをより一層充実させることが必要である。しかしながら、今回参加した学生は、「スポーツ講習会」の実施を通して、講習会の時間配分や事前準備の重要性を感じることができたのではないかと考えられる。

4.1.4. 今後の「スポーツ講習会」で取り入れた方が良い種目、ゲームについて

表2は、今後の「スポーツ講習会」で取り入れた方が良い種目についての一覧である。様々な種目が提案されているが、全学年の児童が参加する

表2 今後の「スポーツ講習会」で取り入れた方が良い種目、ゲーム

新しいスポーツ、遊びなど
ドッジビー
タグラグビー
アイスクリームボール
ブルボール
ドッジボール
ジャンケン列車
各学年で差の生まれない種目、ゲームがあるなら多学年交流ができて楽しいものとなるのではないかな。
ダンス、曲を使った遊び
進化ジャンケン
ニュースポーツ
ソフトバレーボール
学校に設置されている遊具の遊び方
昔遊びを取り入れたり、失われそうな遊び、ゲーム等の取り入れ
もっと広い場所でのびのびとスポーツをさせてあげたい
フリースロー(バスケ)
ボールを使う

ことから、学校体育で行われるボール運動の教材を実践することが難しいといえる。しかし、各学年で差の生まれない種目、異学年間で交流できるゲームは今後検討していく余地があると考えられる。また昔遊びなど、今の子どもたちが行わない遊びを取り上げてみることも検討できる。

4.2. T小学校校外安全生活部の保護者を対象としたアンケート調査の結果

表3はT小学校校外安全生活部の保護者を対象としたアンケート調査から得られた記述を質問項目ごとに示したものである。

「学生たちの運営状況」についての質問に対しては、「とてもてきぱきしていた」、「安心して任せることができた」、「とてもスムーズで慣れている印象を受けた」、「進行も学生というより本当の先生の様にも見えた」などの回答が得られ、学生の「スポーツ講習会」の運営に対して好印象を持っていることが明らかになり、学生たちの運営状況を高く評価している傾向にあった。学生のアンケート調査から、運営状況には課題を残す結果ではあったが、保護者の方々からの学生たちの運営

状況に対する暖かい回答をいただけたことは有難いことである。また、「トイレ、水分補給のタイミングも良かった」、「子どもの体調などの様子を見てくれて有難かった」などの回答も得られたことから、事前のミーティングで水分補給のタイミングや安全管理について打ち合わせをした成果があらわれているといえる。

「スポーツ講習会」に対する子どもたちの反応についての質問に対しては、「とても活発に動き、とても楽しそうに参加していた」、「とても盛り上がっていた」などの回答が得られ、「スポーツ講習会」に対する児童の反応は良好であったと推察できる。その反面、「楽しんでいたが、子供によっては慣れるまで（その雰囲気）時間がかかる子もいた様に思う」、「高学年は、時間が経つと元気よく活動できていたと思う」などの回答もあった。参加する児童が、講習会の雰囲気に溶け込めるような手立てを今後、検討していく必要があると考えられる。

「学生たちの印象や姿」についての質問に対しては、「礼儀正しく、明るく、元気の良い姿だったと思う」、「あいさつ、態度、すべてにおける印象に好感が持てた」などの回答が得られ、保護者の多くは、学生たちの印象や姿に対して好印象を持っていたことが明らかになった。「きちんとした身なりをしていた。あいさつもきちんとしてくれた」との回答も得られ、身なりやあいさつに関しても好印象であったといえる。「礼儀正しい」、「元気が良い」、「きちんとした身なりをする」、「あいさつをする」ことは教員としてはもちろん、社会人として仕事をする上で大切なことである。これらのキーワードが保護者の方々から得られたことは、教員養成を行う本学科として大変嬉しいことである。

「実施種目の適切性、実施して欲しい種目」についての質問に対しては、「普段やることのないものなのでとても楽しんでできると思う」、「低学年も高学年も楽しめる種目だったと思う」などの回答が得られ、実施した種目に対して良い反応が

表3 T小学校校外安全生活部の保護者を対象としたアンケート調査の結果

<p>1. 学生たちの運営状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ とてもてきばきしていた。 ・ 安心して任せることができた。 ・ 子ども達への指導方法も要領が良く、全く子ども達が飽きていなかった。 ・ トイレ、水分補給のタイミングも良かった。 ・ 一人一人の子供達が楽しそうに遊んでいた。 ・ とてもスムーズで慣れている印象を受けた。 ・ 進行も学生というより本当の先生の様にも見えた。 ・ 準備～導入まで気を配っていて、子どもたちの気持ちをまとめてくれた。 ・ (暑い時期の実施で)子どもの体調などの様子を見てくれて有難かった。 ・ 体を思い切り使うゲームは親ではなかなかできないため、とても良かった。 ・ グループごとにスムーズに進行できたと思う。 ・ もめごとがあった時もきちんと対応できていたと思う。 ・ 学生さんたちがとても子供たちにフレンドリーに接してくれて、子供たちも楽しそうだった。
<p>2. 「スポーツ講習会」に対する子どもたちの反応</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ とても活発に動き、とても楽しそうに参加していた。 ・ 体育館でも校庭でも違った遊びをしてくれたので喜んでた。 ・ 楽しんでたが、子供によっては慣れるまで(その雰囲気)に時間がかかる子もいた様に思う。 ・ 特に低学年がすごく楽しんでたと思う。高学年は、時間が経つと元気よく活動できていたと思う。 ・ とても盛り上がっていた。子どもたちも学生さんたちが来ることに慣れているようで、やりたがらなかったり、自分勝手な行動をする子はいなかったように思う。 ・ 体を動かすことが楽しいからか、学生さんたちの指示に従い、積極的に参加していたように思った。
<p>3. 学生たちの印象や姿</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 礼儀正しく、明るく、元気の良い姿だったと思う。 ・ あいさつ、態度、すべてにおける印象に好感が持てた。 ・ 安心して子ども達を任せられる印象の学生さん達だった。 ・ 若いお姉さん・お兄さん達に子供達は、新鮮な感じがして嬉しかったと思う。 ・ きちんとした身なりをしていた。あいさつもきちんとしてくれた。 ・ 学生らしく元気で好印象だった。 ・ 元気いっぱい、子どもたちの対応に慣れているように感じた。 ・ 盛り上げ方がさすが！と思った。 ・ 子どもたちに優しく、とても礼儀正しいと感じた。
<p>4. 実施種目の適切性、実施して欲しい種目</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切だと思う。子どもたちの年齢に合わせた種目を選んで実施していただければと思う。 ・ どの競技も普段やることのないものなのでとても楽しんでできると思う。学校ではあまりやらないような種目なので子供たちも楽しいと思う。 ・ 低学年も高学年も楽しめる種目だったと思う。 ・ バasketボールやドッジボールなど。 ・ どの種目も限られたスペースの中ではやる物としては適切だった様に思う。 ・ 物を使わなくても、体だけで楽しめる種目もあったら良い。
<p>5. その他(「スポーツ講習会」に対する感想、意見)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達が楽しめて良かったです。今後もよろしくお願いします。 ・ 子供達は学校のカリキュラムとは違った新鮮な思いで、楽しいと思います。 ・ もっとこのような機会が増えれば良いなと思いました。どうもありがとうございました。 ・ 子供達としても、いつもと違うグループで普段やらない様な事をやらしてもらえると一つの楽しみになっていると思います。 ・ 学年ごとに分かれて行うのも良いが、1種目くらいは色々な学年との交流もしていただくとありがたいです。 ・ 学生さんたちの若く元気な力でいつもご協力くださりありがとうございます。今後もあたたかいご協力を下さいますよう、どうぞよろしくお願い致します。 ・ 毎年お世話になり、ありがとうございます。専門的な知識のある学生さんや先生が考えて下さる内容はとても新鮮で子供たちにも特別なお楽しみ会になったと思います。

得られた。しかし、バスケットボールなどボールを使ったゲームや体だけで楽しめる種目を実施して欲しいとの声もあり、26年度はさらなる実施種目の検討が求められるといえる。

「スポーツ講習会」に対する感想、意見では、「スポーツ講習会」の内容や実施方法、学生の姿に対しての良好な回答を得ることができた。意見として「学年ごとに分かれて行うのも良いが、1種目くらいは色々な学年との交流もしていただくとありがたい」という回答を得られたことから、学生たちを対象としたアンケート調査の結果でも述べた通り、異学年間での交流も視野に入れた内容を検討していくことが今後の課題であるといえる。

5. 「スポーツ講習会」実践の意義について

以上の結果から、学生主体で行う「スポーツ講習会」の実践の意義は以下のようにまとめることができる。

- ①「スポーツ講習会」の実践を通して、児童に対して運動・スポーツを指導することの難しさ、安全指導の重要性に気づくことができる。
- ②「スポーツ講習会」は学生にとって児童と関わることができる良い機会である。
- ③「スポーツ講習会」で実際、児童に指導することで、体育・スポーツ指導に関する知識や実践力を高めることが可能である。
- ④「スポーツ講習会」は全学年を対象とする講習会であることから、1年生～6年生の児童の実態を把握することができる有効な機会である。
- ⑤「スポーツ講習会」の実践を通して、児童への指導の仕方や運営要領についての振り返り、今後の教育活動に活かすことができる。

本学科の学生は、4年次に小学校と中学校もしくは高等学校の教育実習を迎えるが、その前段階として、2年生や3年生の時期にこのような「スポーツ講習会」を通して児童に運動・スポーツを指導したり、様々な児童、1年生～6年生、全学年の児童と触れ合ったりすることは「教育実習の

事前学習」としても大変意義のあることではないかと考えられる。また、「スポーツ講習会」は、T小学校校外安全生活部の保護者の方々との連携を通して行うイベントであることから、学生が保護者と関わる良い機会でもあるといえる。教員養成の時期には、保護者と関わる機会が少ないが、実際、教員になった時は、保護者とコミュニケーションをとる機会は多々ある。「スポーツ講習会」を通して保護者の方々と事前に連絡を取り合うことや当日関わりを持つことで、保護者とのコミュニケーションを取ることが可能である。

先述のとおり、本学科は「体育・スポーツの得意な小学校教員」を養成することを目指しており、さらに池田³⁾は、こどもスポーツ教育学科では「体育・スポーツのもつ教育的な可能性や魅力を最大限に引き出すことができる小学校教員の養成を目指している」と述べている。このことから、児童と共に体を精一杯動かし、児童にスポーツをすることの楽しさを伝えることができる「スポーツ講習会」を学生主体で実践することは本学科の目指す教員養成の目標に近づく一手立てになるのではないかと考えられる。よって、今後、多くの学生が「スポーツ講習会」に参加し、様々な経験を通して成長し、教員を目指してくれることを願いたい。

6. 今後の「スポーツ講習会」の課題

今後は以下の2点について検討していくことが課題である。

講習会の流れ、運営要領（実施種目のルールや指導方法、安全指導など）を確認するため、講習会前の参加者でのミーティングをより一層充実させること。

次年度に実施する種目は今年度の実施種目を参考にし、さらなる検討が必要であること。また、異学年間での交流も視野に入れ、全学年で取り組める種目を検討すること。

実施する回数が増えるごとに様々な課題が出てくるが、このような講習会の課題を一つ一つ克服

していくことで、児童が楽しいと思える「スポーツ講習会」、保護者の方々が「また、やって欲しい」と思える「スポーツ講習会」になると考えている。こどもスポーツ教育学科において、この「スポーツ講習会」が今後、益々発展し、大学と地域をつなぐ良い架け橋になっていくことを期待したい。

注

- 1) オセロゲームの円形物は、「屋内スポーツリバーシ」(エバニュー社製)を使用した。
- 2) 「フライングディスク」はDODGEBEE270(ラングスジャパン社製)を使用した。

引用参考文献

- 1) 東根明人 監 (2006) コーディネーション運動65選. 明治図書, pp.52.
- 2) 藤井千恵子・三小田美穂子・池田延行 (2010) 小学校教員養成課程における学生による運動会実施の意義. 国士館大学体育研究所報, 29: 113-121.
- 3) 池田延行 (2014) 体育学部における小学校教員養成の取り組み. SYNAPSE, 34: 24-27.
- 4) 文部科学省 (2008) 多様な動きをつくる運動(遊び)パンフレット.
- 5) 三小田美穂子・藤井千恵子 (2010) 教員養成課程における学生による運動会の意義について. 体育・スポーツ科学研究(国士館大学体育・スポーツ科学学会), 10: 74-90.

(HP)

日本ドッジビー協会

<http://www.dbja.jp/main/index.php>

(2014年11月25日現在)